97 世界遺産のバックステージ

一度は訪れてみたい世界遺産。現在、日本には 20 の文化遺産がありますが、人々の暮らしの中で育まれ、受け継がれ、様々な困難の中で保存の努力がされています。観光客目線で歴史的建造物や文化的景観を楽しむのも良いですが、その舞台裏の地域の取り組み（バックステージ）について解説します。そこは文化財保護の最先端というだけでなく、歴史・文化をいかすまちづくりのヒントが隠されています。

講　師
麻生　美希 准教授

専門分野
都市計画、文化的景観

現在の研究テーマ
地域主体の景観マネジメント

担当科目
都市空間論、景観デザイン学

出講可能日
金・土曜日

講義に必要な機材
プロジェクター、スクリーン

研究テーマの詳細

98 日本の洋装事始め

私たちは日常生活の中で当たり前に洋服を身につけています。着物で生活していた日本において洋服が受け入れられ始めたのは、明治維新の頃。それから 150 年ほど経った現在、私たちの衣生活は洋服中心に大きく変化しました。当時の写真やイラストを紹介しながら、日本での洋装化と洋服作りの始まりについて講義し、衣服の持つ力について考えます。

講　師
藤本　純子 准教授

専門分野
被服造形、被服デザイン

現在の研究テーマ
20 世紀初頭の衣服デザインと構成、
歴史衣装のレプリカ制作

担当科目
被服造形学、被服製作実習

出講可能日
火曜日

講義に必要な機材
プロジェクター、スクリーン、パソコン

研究テーマの詳細

99 エシカルファッションを考える

いまや生活のあらゆる局面で意識されているサスティナビリティ（持続可能性）ですが、ファッションの分野でも問題解決にむけて実践的な取り組みがなされています。その代表が「エシカルファッション」です。エシカルファッションとは良識にかなって生産、流通されるファッション商品を指し、“人と環境にやさしいファッション”ともいわれます。この講義では、エシカルファッションの担い手たちの活動を紹介し、これからの可能性について考えます。

講　師
平光　睦子 教授

専門分野
デザイン史、服飾文化史

現在の研究テーマ
ファッション産業・テキスタイル産業の近代化

担当科目
衣生活学、服飾デザイン論

出講可能日
春学期：火・土曜日
秋学期：月・土曜日

講義に必要な機材
プロジェクター、スクリーン

100 “いのち”の豊かさとは　～現代社会からの問いかけ～

21 世紀を迎えた現代社会は「進歩」という言葉の下、様々な領域で不可能な事柄を可能な事柄へ転じてきました。その事実は私たちの生命（いのち）を豊かにしたのでしょうか？！現代社会の生命領域の具体的事象（臓器移植など）に向き合いながら、“いのち”観の構築に挑戦します。その際、宗教文化（キリスト教文化）にも若干言及する予定です。いのちの意義をその存在自体ではなく、関係性に注目しつつ探究します。

講　師
小﨑　眞 教授

専門分野
歴史神学（キリスト教教会史等）、実践神学（宣教論）、宗教倫理

現在の研究テーマ
日本社会におけるキリスト教、生活に根ざした倫理学

担当科目
いのちと倫理、死生学

出講可能日
月・土曜日

講義に必要な機材
プロジェクター、スクリーン

研究テーマの詳細

101 くらしの中の「あかり」デザイン

すまいの中には様々な「あかり」が存在し、時代とともに変化しています。本講義では、インテリア空間における照明の役割や歴史について概説し、近年急速に取り替えが進む LED ランプの特性について、従来光源との違いや、モノの色の見えとの関係から解説します。また、良質な光を空間にもたらす北欧の照明デザインを紹介し、照明器具のデザインや光の質の側面から、インテリア空間における人と「あかり」の関係について考えます。

講　師
奥田　紫乃 教授

専門分野
居住環境計画、光環境評価、視覚心理・生理

現在の研究テーマ
化粧行為に適した光環境、美術鑑賞のための照明、内装材のテクスチャ評価など

担当科目
居住環境学、くらしの色彩学

出講可能日
月・金曜日

講義に必要な機材
プロジェクター、スクリーン

102 持続可能な暮らしに向けて

現在、SDGs をはじめ「持続可能な」という言葉がところどころに使われています。では、実際にわたしたちの暮らしのなかで持続可能なこと、持続可能のためにできることには、どのようなことがあるのでしょうか？地域の社会や環境と、わたしたちの暮らしとの関係を確認しながら、持続可能な暮らしについて考えていきます。

講　師
齋藤　朱未 准教授

専門分野
農村計画、環境計画

現在の研究テーマ
農村コミュニティと農村振興、離島半島の生活実態の分析

担当科目
まちづくり概論、環境教育論

出講可能日
木（秋学期のみ）・金曜日

講義に必要な機材
プロジェクター、スクリーン

研究テーマの詳細

103 子ども部屋を考える

現代の住まいでは当たり前の存在である子ども部屋。子ども部屋が日本の住まいに登場したのは大正時代まで遡り、専用の子ども部屋が一般的になったのは割と最近のことです。子ども部屋はどのようにして生まれ、どのように変わってきたのでしょうか。子ども部屋の成立と変遷、国内外の子ども部屋事情、居心地良く住まうための部屋づくりの秘訣を資料や実例をもとに解説し、子ども部屋の役割について考えます。

講　師
塚田　由佳里 准教授

専門分野
住居計画、インテリアデザイン、建築計画

現在の研究テーマ
子どもの住環境、北欧の住環境と生活文化、住空間の計画・設計

担当科目
インテリアデザイン論、空間デザイン応用実習

出講可能日
月・土曜日

講義に必要な機材
プロジェクター、スクリーン

研究テーマの詳細